



交野おりひめ大学通信

一人じゃ出来ないことを、10人で、50人で、100人で！

令和8年1月号



1月の行事 成人式

対話と学びの種を、
交野らしく育てる一年に

みなさま、新年明けましておめでとございます。健やかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

2025年を振り返りますと、交野おりひめ大学にとっては「対話」と「実践」が深く根を張った一年となりました。「一人じゃ出来ないことを、みんなで」「やりたい！」を支える。「という私たちの理念は、小さな「やりたい」という声を未来の種として大切に育てる」ことです。

2026年も、対話を軸に、無理のない関わり方で、交野の学びと実践の場を広げていきたいと考えています。

本年も、よろしくお願ひいたします。

森と対話が紡ぐ

「Hygge(ヒュッケ)」な時間
KATANOホイスコーレ
準備室活動報告

今回は、一昨年4月の発足以来、じつくりと「対話」を深めてきた「KATANOホイスコーレ準備室」による初の対外イベントの様子を紹介します。

12月20日(土)、大阪公立大学附属植物園にてプレイベント「Hike&Tea」森と対話とHygge」が開催されました。天気予報では雨マークがついていましたが、当日は見事な快晴となり、コートがいらぬほどのぽかぽか陽気に恵まれました。

「Hike&Tea」とは、森を散策しながら(Hike)、ティーマカードに沿って「語る人」と「聞く人」に分かれて対話する(Teal)アクティビティです。「Hygge(ヒュッケ)」はデン

マーク語で、日本語では一言で訳しにくい言葉ですが、「心地よいひととき」「や」安心できる関係性」を指し、今回は植物園の森の中を散策しながら、自分にとっての「Hygge」を探す小さな旅をしていただくことが目的です。

まず、皆を迎えてくれたのは、天高くそびえるメタセコイヤの並木道です。地面に敷き詰められた落ち葉が木漏れ日に照らされ、まるで森がオレンジ色の絨毯を用意して歓迎してくれているかのような、幻想的な光景が広がっていました。



美しく輝くメタセコイヤ並木

そして小高い丘の上の東屋でチエックイン。自己紹介で、参加者同士に意外な繋がりがあることが判明し、開始早々から心の距離が縮まるという、まさに「ヒュッケ」な空気が流れ始めました。

心を通わせる「Fika」と
手作りのお菓子

対話の後は、スウェーデンの文化である「Fika(フィーカ)」の時間を楽しみました。「Fika」とはスウェーデンの文化で、「コーヒーやお茶を飲みながらちよつと一息つく、人となつがるための小さな休憩を指します。

単なる「休憩」ではなく、心を落ち着けて誰かと語りつたり、自分を振り返りたりする大切な習慣として根付いていることに魅力を感じ、あえてこの言葉を使っています。

その名の通り、終始和やかな雰囲気、男性スタッフお手

製の焼き菓子を囲みながら、参加者もスタッフも垣根なく、心ゆくまで対話を深めることができました。



手作りお菓子を囲んでFikaの時間

準備室のメンバーは、この約2年間、月に一度の定例会で「対話とは何か」「対話に期待することへの想い」を徹底的に共有し、満を持して初めて外部からの参加者を募りました。だからこそ、告知から実施まで1ヶ月足らずという急ピッチな準備期間にも関わらず、各自が主体的に動き、阿吽の呼吸で今回のイベントを実施することが出来ました。

2026年、植物園でのシリーズ化が決定！

シリーズ化が決定！結果的には外部から6名もの参加申し込みをいただき、参加された方々からは、早くも「次回も開催してほしい」という嬉しいリクエストをいただいています。これにお答えし、KATANOホイスコーレ準備室は、年明けから定例会の会場を植物園に移し、活動をシリーズ化することに決定しました。

活動日は、毎月第4土曜日の午後、植物園のどこかで「対話」の場を開いていきます。

「興味のある方は、左記SNS(インスタグラム)フェイスブック)のQRコードで、「KATANOホイスコーレ」をフォローの上、ぜひ一度見学にお越しください。お待ちしております。



Facebook



Instagram